



2026.04

漢方医学センター・
麻酔科
矢数 芳英

漢方薬にも副作用はある？

～安全に漢方治療を続けるために

知っておきたいこと～

1. 「漢方薬は安全」というイメージについて

漢方薬は自然由来の成分から作られているため、「身体にやさしい」「副作用が少ない」というイメージを持たれている方が多いと思います。実際に、多くの方が安全に使用されています。

しかし、漢方薬も「薬」である以上、副作用が全くないわけではありません。これは現代医学の薬でも同じことで、効果のある薬には注意すべき点もあるというは共通しています。大切なのは、副作用を過度に恐れることなく、どのような症状に気をつければよいかを知っておくことです。

2. 甘草による血圧上昇・むくみ

「甘草（かんぞう）」は多くの漢方薬に含まれる生薬ですが、長期間の使用などで偽アルドステロン症という副作用が起こることがあります。

主な症状は、「むくみ・血圧上昇・手足に力が入りにくい・だるい」などです。これらの症状に気づいた場合は、早めに医師に相談することが大切です。薬を調整することで改善することがほとんどです。

3. 地黄による胃腸の不調

「地黄（じおう）」は体力を補う働きがある重要な生薬ですが、人によっては「胃もたれ・食欲低下・みぞおちの痛み・下痢」などの消化器症状が出る場合があります。

このような場合には、服用量の調整や処方の変更で対応できることが多く、無理に続ける必要はありません。胃腸の調子が悪くなったときには、早めに相談することが大切です。

裏面へ続く

4. 麻黄による胃腸の不調や不眠・動悸

「麻黄（まおう）」は風邪や咳の治療によく使われる生薬です。有名な葛根湯や麻黄湯にもこの麻黄が含まれています。一方、麻黄は漢方薬の中でも比較的作用が強いため注意が必要です。「胃もたれ・食欲低下・みぞおちの痛み・下痢」などの消化器症状だけでなく、「不眠・動悸・尿が出にくい（尿閉）」などの症状が出る場合があります。

特に高齢の方、心臓の病気がある方、甲状腺の病気がある方、前立腺の病気がある方では注意が必要です。これらの症状が出た場合には、服用を中止せず、医師や薬剤師に相談してください。

5. 黄芩による肺や肝臓の副作用

「黄芩（おうごん）」を含む漢方薬では、まれではありますが、肺や肝臓に影響が出る副作用が報告されています。注意していただきたい症状は「発熱・咳や息切れ・強いだるさ・皮膚や白目が黄色くなる」などです。これらの症状が現れた場合には、薬剤性肺障害や薬物性肝障害が疑われるため早めの受診が重要です。

6. 安全に漢方薬を使うために

ここまで副作用について説明してきましたが、漢方薬は適切に使用すれば安全性の高い治療法です。多くの副作用は早期に対応することで改善します。

安全に治療を続けるために大切なことは、「指示どおりに服用する・体調の変化を早めに相談する」という基本を守ることです。

漢方薬は体質に合わせて調整できる治療です。気になる症状があれば、遠慮なく医療スタッフにご相談ください。

漢方外来は**紹介制・予約制**です。当院におかかりの方は、各診療科の主治医に漢方外来への受診希望をお伝えください。